





審査結果報告書

平成 28 年 / 1 月 8 日

主査 氏名 阪とし行 

副査 氏名 菊池 史郎 

副査 氏名 七里 真義 

副査 氏名 馬島 正隆 

1. 申請者氏名 : 奥脇 興介

2. 論文テーマ : Clinicopathologic characteristics of pancreatic neuroendocrine tumors and relation of somatostatin receptor type 2A to outcomes.
(膵神経内分泌腫瘍の臨床病理学的特徴 —ソマトスタチンレセプターType 2A の発現と予後との関連性—)

3. 論文審査結果 :

申請者は、近年増加傾向にある膵神経内分泌腫瘍細胞(PNET)の治療法の選択および予後予測を明確にするために、1988年から2012年までの北里大学東病院で病理診断されたPNET97例を用いて、臨床的特徴、SSTR-2aスコアを含めた病理診断学的特徴と予後との関連性に関して後ろ向き検討を施行した。その結果、①単変量解析により、膵腫瘍径が20mm以上、血管浸潤、2010年の新WHO分類の神経内分泌癌(NEC)、ソマトスタチン受容体-2a (SSTR-2a)の発現スコア0が有意な予後不良因子であること、②多変量解析により、新WHO分類のNEC、SSTR-2aの発現スコア0がそれぞれ独立した予後不良因子であることを明らかにした。本研究は、2010年に改定された新WHO分類に従った腫瘍分類のもと検討され、その有用性と予後不要因子を初めて明らかにした点、消化器内分泌腫瘍細胞として従来の一括して検討されてきたに対して、膵臓原発の内分泌腫瘍に限定して詳細に検討した点、さらに新WHO分類で分類された予後不良とされるNECのなかにもSSTR-2a陽性例の存在を明らかにし、その多様性を示唆した点で、治療法の選択と予後予測を考える上で極めて有用な基盤となる学術的価値の高い研究内容である。また、学位審査会では、幅広い学術的背景と深い結果の考察を含め理路整然とした発表を行い、審査員によるコメントに対して的確に応答し、本学問領域に関する包括的な深い知識を有するものと評価された。以上を踏まえて、審査員一同、奥脇興介氏が博士の学位を授与されるに十分な資格を有しているものと判断した。